

調査結果

(※極端に数値が小さいもの等は、100%横棒グラフで表示ができないため、参考資料で数値をご確認ください。)

Q1～Q3の結果はP23、P24のとおりです。
以下の設問については参考資料をご確認ください。

Q5：参考資料	P2
Q7：参考資料	P5
Q32：参考資料	P63

性別、年齢階級別回答数

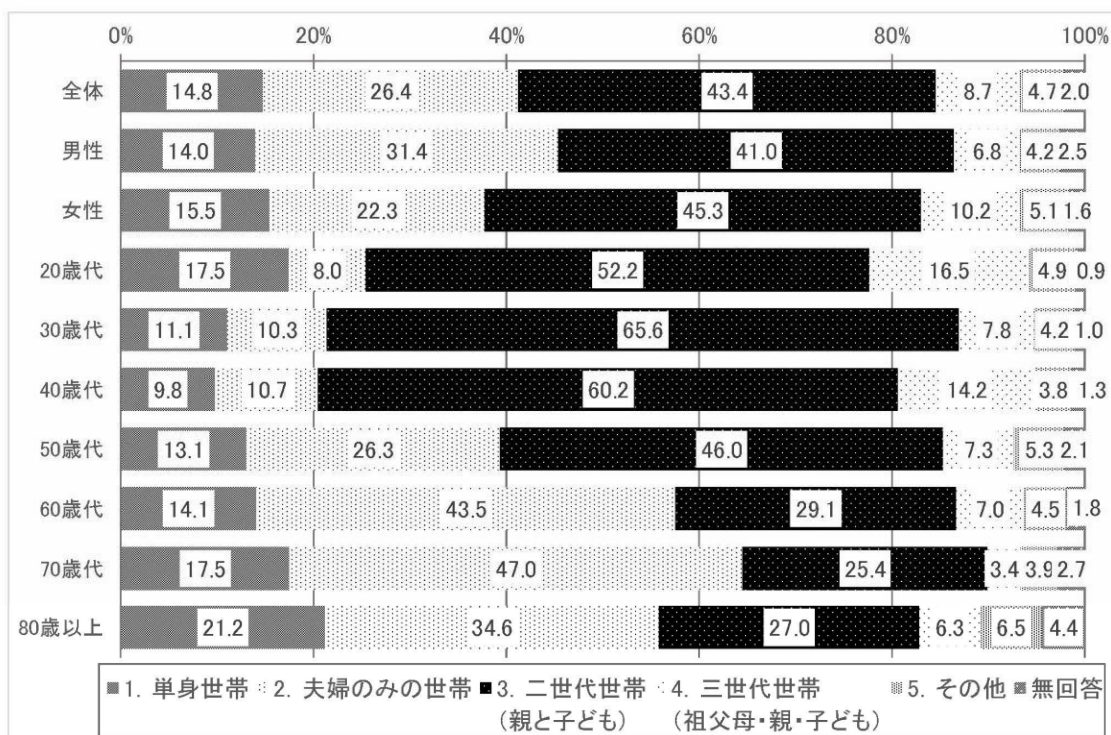
		性別		合計
		男	女	
年齢階級	20 歳代	225 11.2%	325 13.4%	550 12.4%
	30 歳代	287 14.2%	382 15.7%	669 15.1%
	40 歳代	259 12.9%	341 14.0%	600 13.5%
	50 歳代	287 14.2%	394 16.2%	681 15.3%
	60 歳代	316 15.7%	344 14.2%	660 14.8%
	70 歳代	343 17.0%	353 14.5%	696 15.7%
	80 歳以上	298 14.8%	291 12.0%	589 13.3%
	合計	2,015 100.0%	2,430 100.0%	4,445 100.0%

市町別、保健所別回答数

市町	回答数	保健所	回答数
長崎市	1401	長崎市保健所	1401
佐世保市	646	佐世保市保健所	646
島原市	117	西彼保健所	308
諫早市	400	県央保健所	968
大村市	253	県南保健所	327
平戸市	92	県北保健所	289
松浦市	107	五島保健所	83
対馬市	100	上五島保健所	215
壱岐市	105	壱岐保健所	105
五島市	83	対馬保健所	100
西海市	94	無回答	3
雲仙市	122	合計	4445
南島原市	88		
長与町	103		
時津町	111		
東彼杵町	127		
川棚町	88		
波佐見町	100		
小値賀町	111		
佐々町	90		
新上五島町	104		
無回答	3		
合計	4445		

基本属性について

Q4: あなたの世帯は、次のどれにあてはまりますか。(あてはまるもの1つに○)

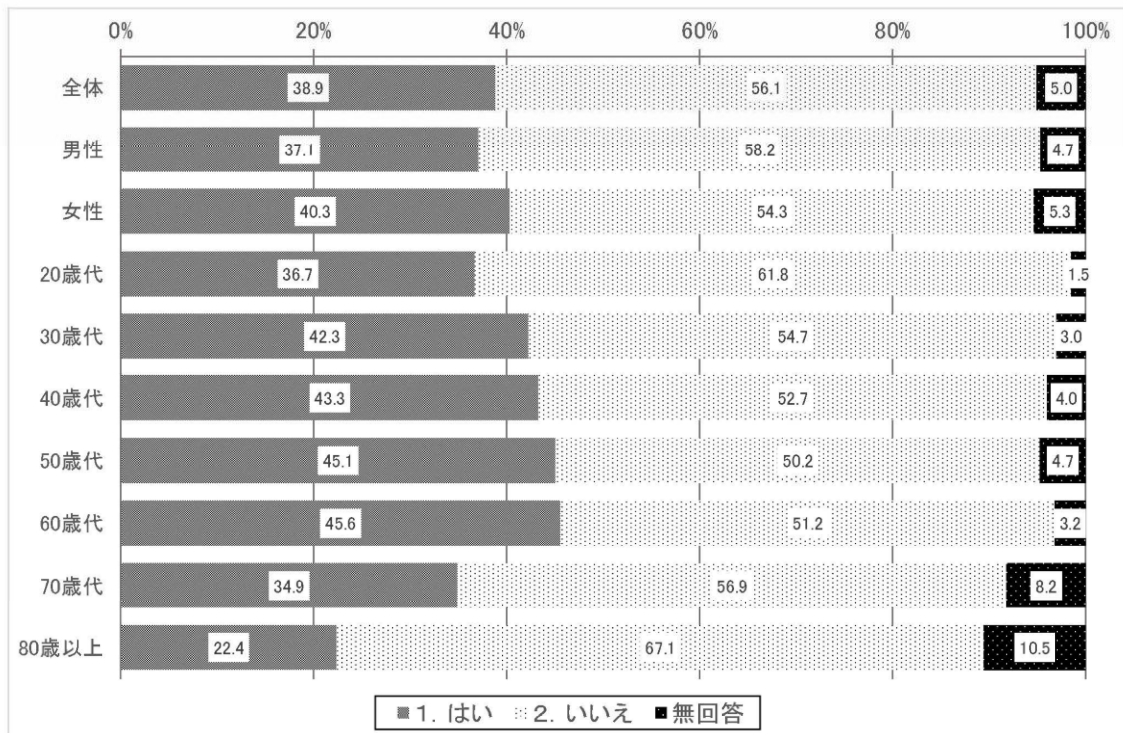


世帯構成の調査では、二世帯世帯（親と子ども）が43.4%と最も多く、次いで夫婦のみの世帯が26.4%であった。単身世帯は14.8%であり、三世帯世帯（祖父母・親・子ども）は8.7%であった。

性別の集計では、男性は二世帯世帯（親と子ども）が41.0%で最も多く、次いで夫婦のみ世帯が31.4%であった。女性では二世帯世帯（親と子ども）が45.3%で最も多く、次いで夫婦のみ世帯が22.3%と高かった。

年代別の集計では、年代が上がるにつれ単身世帯及び夫婦のみ世帯の割合が多くなる傾向があった。

Q6: あなたは身長に見合った健康的な体重を知っていますか。(あてはまるもの 1 つに○)

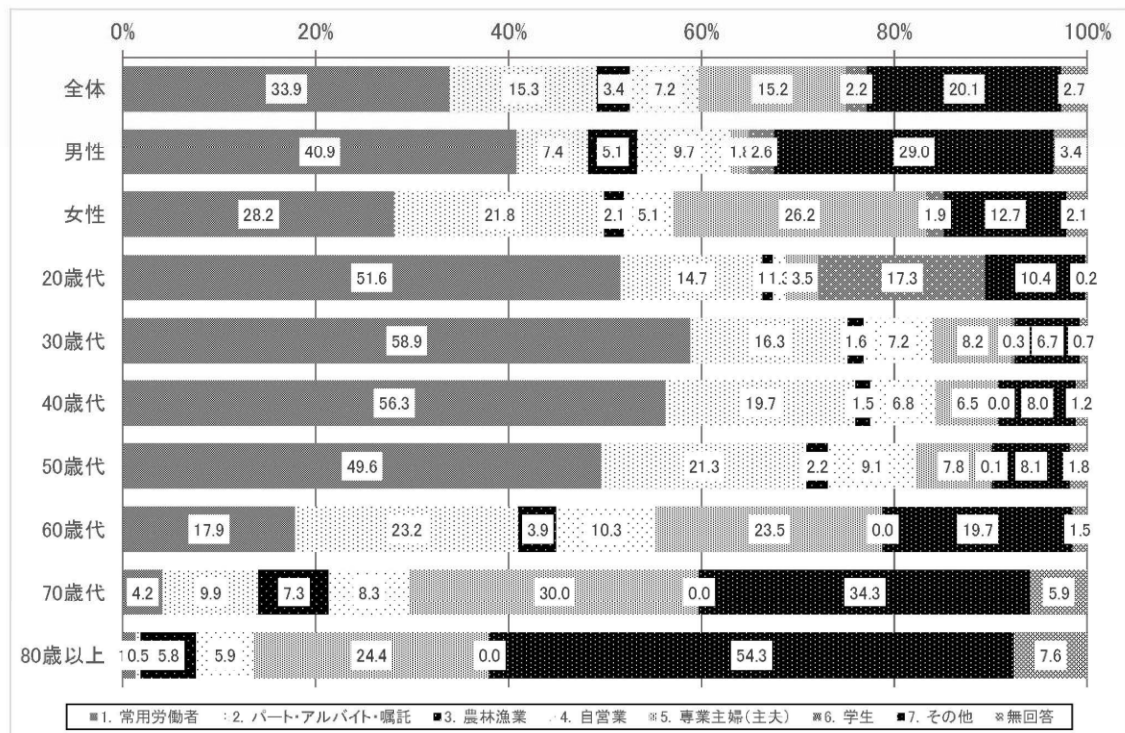


自分自身の身長に見合った健康的な体重の把握において「はい」と回答した割合は、全体の 38.9% であった。

性別の集計では、「はい」と回答した割合が男性で 37.1%、女性で 40.3%であり、男女間の回答に大きな差はみられなかった。

年代別の集計では、「はい」と回答した割合について 60 歳代が 45.6%と最も多く、次いで 50 歳代が 45.1% であった。「いいえ」と回答した割合については、80 歳以上が 67.1%と最も高かった。

Q8: あなたの職業(分野)は、次のどれにあてはまりますか(あてはまるもの1つに○)

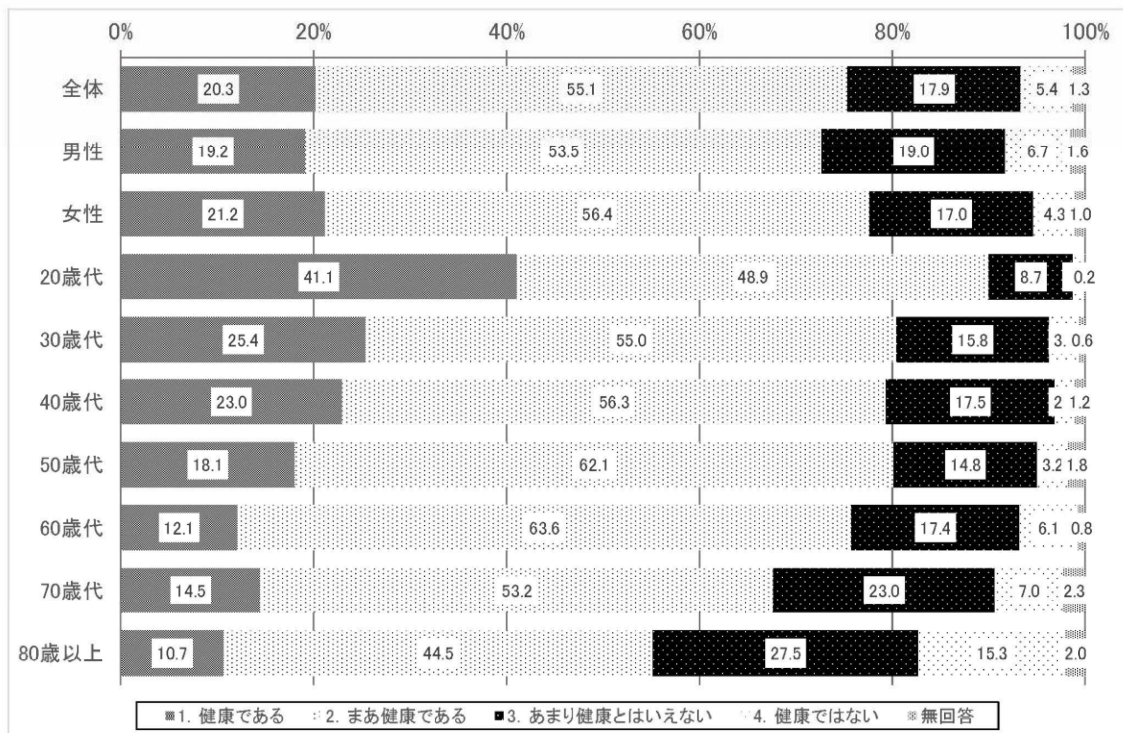


職業(分野)についての調査では、常用労働者が全体の33.9%と最も多く、次いでパート・アルバイト・嘱託が15.3%、専業主婦(主夫)が15.2%であった。

性別の集計では、男性の40.9%が常用労働者であり、次いでそのほかが29.0%であった。女性では28.2%が常用労働者であり、次いで専業主婦が26.2%と高かった。

年代別の集計では、20歳代～50歳代は常用労働者が5割近くで最も多いが、60歳代からは専業主婦(主夫)、その他の割合が多かった。

Q9: あなたは自分の健康状態について、どの様に感じていますか。(あてはまるもの 1 つに○)

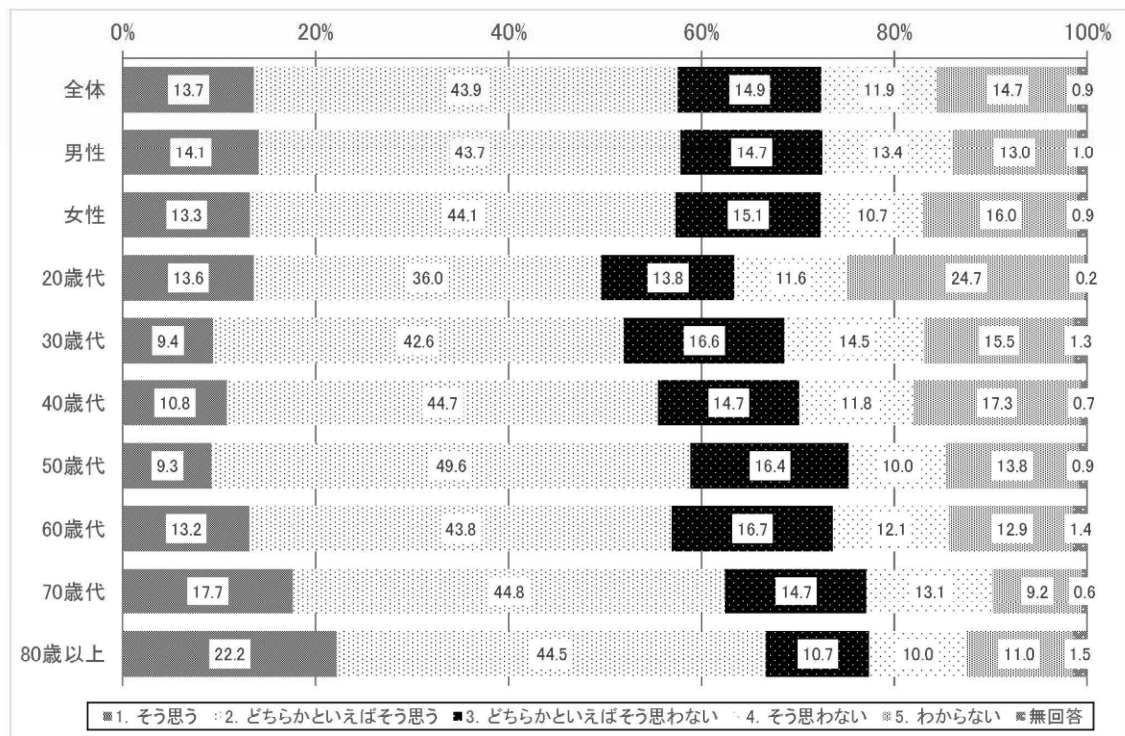


主観的健康観の調査では、全体の約 8 割近くが比較的健康状態がよかった（「健康である」55.1%、「まあ健康である」20.3%と回答）。

性別の集計では、男女間に大きな差は見られなかったが、女性のほうが「健康である」21.2%、「まあ健康である」56.4%と比較的健康状態がよかった。

年代別の集計では、年齢が若いほど健康状態がよかった（「健康である」「まあ健康である」と回答）。

Q10: あなたはお住まいの地域でお互いに助け合っていると思いますか。(あてはまるもの1つに○)



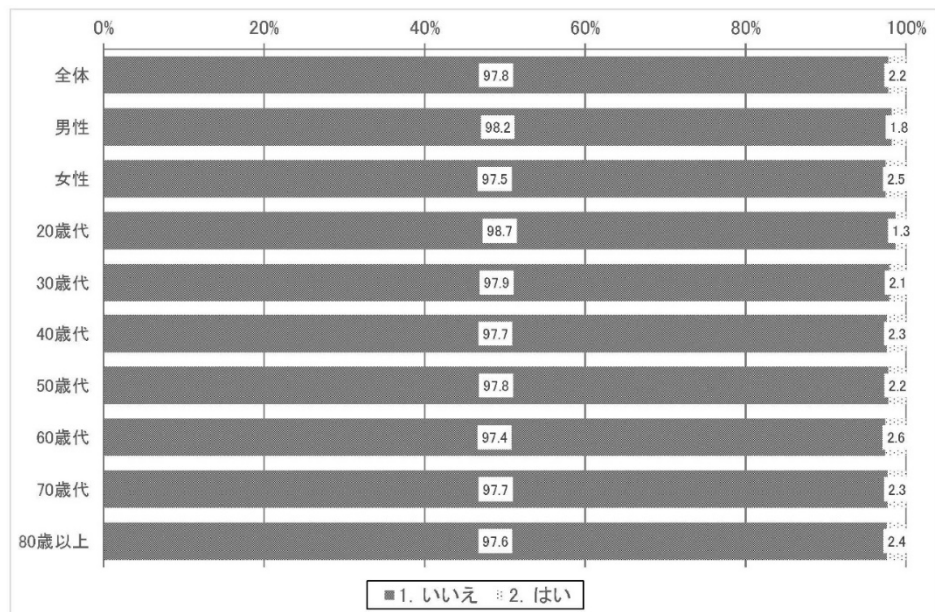
「あなたはお住いの地域でお互いに助け合っていると思いますか。」という問いに対し、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体の57.6%であった。

性別の集計でも全体の集計と同様の結果が得られ、男女間の回答に大きな差はなかった。

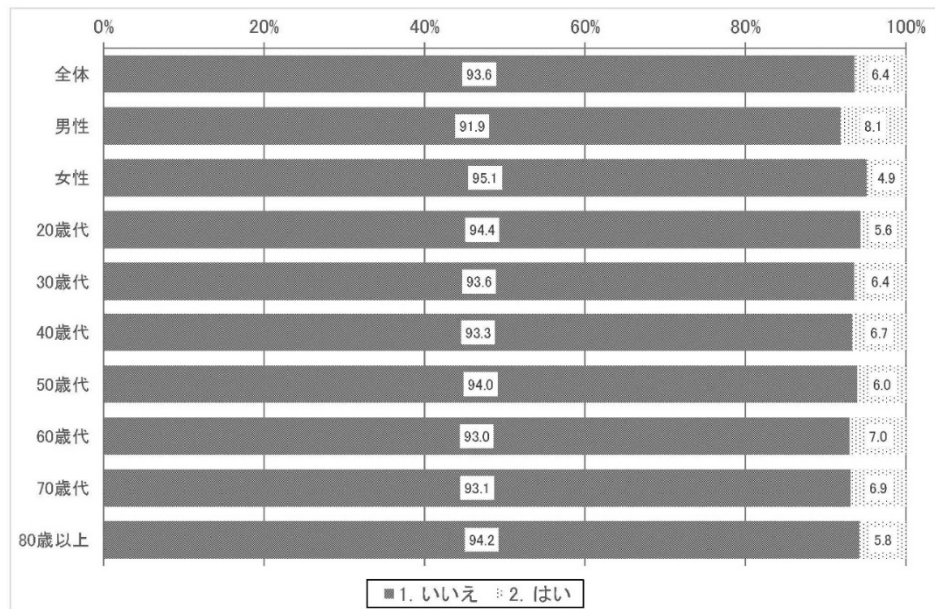
年代別の集計では、住んでいる地域で互いに助け合っていると「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、80歳以上で66.7%と最も高く、20歳代が49.6%と最も低かった。

Q11 あなたは、この1年間におこなったボランティア活動のうち、健康づくりに関係したものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

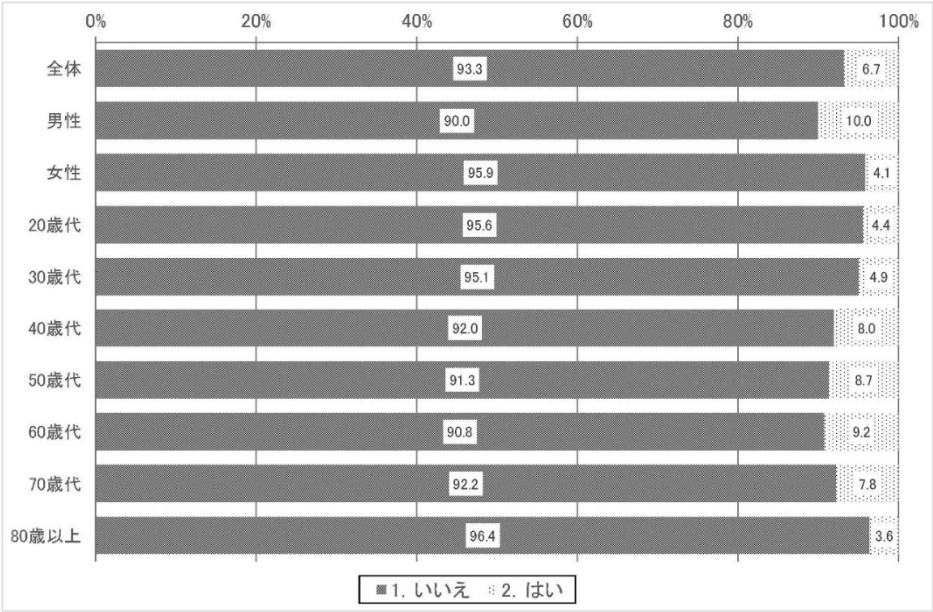
Q11-1. 食生活などの生活習慣改善のための活動:



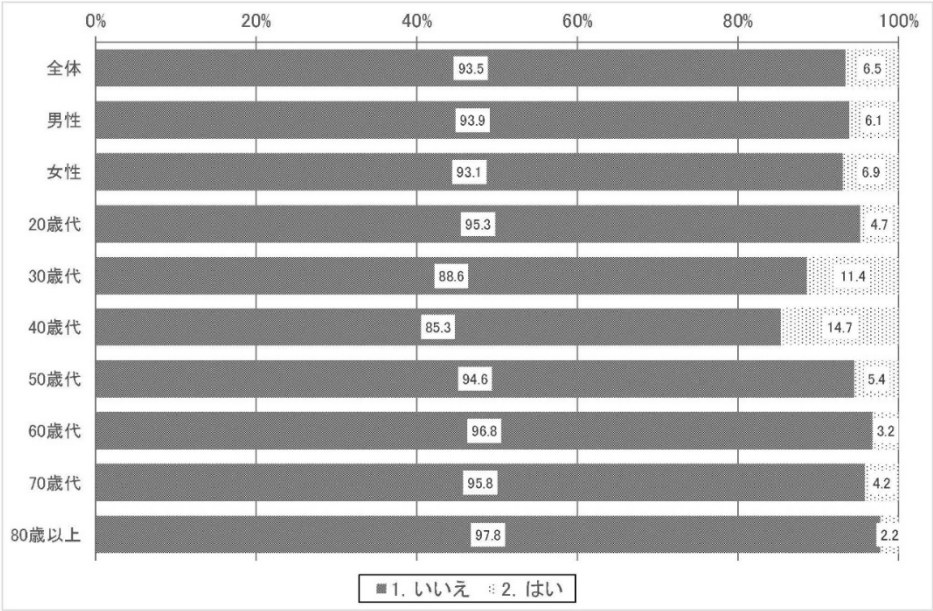
Q11-2. スポーツ・文化・芸術に関係した活動



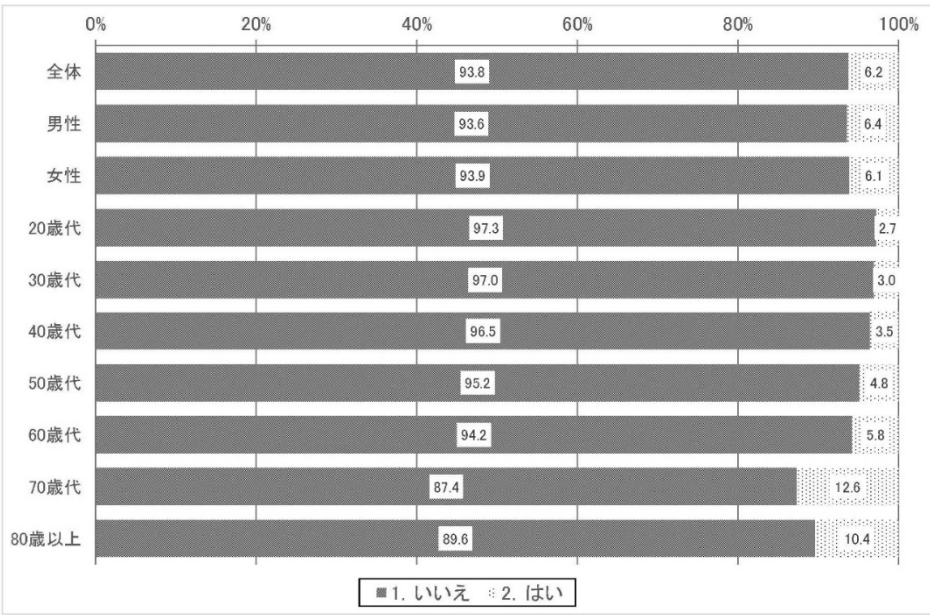
Q11-3. まちづくりのための活動



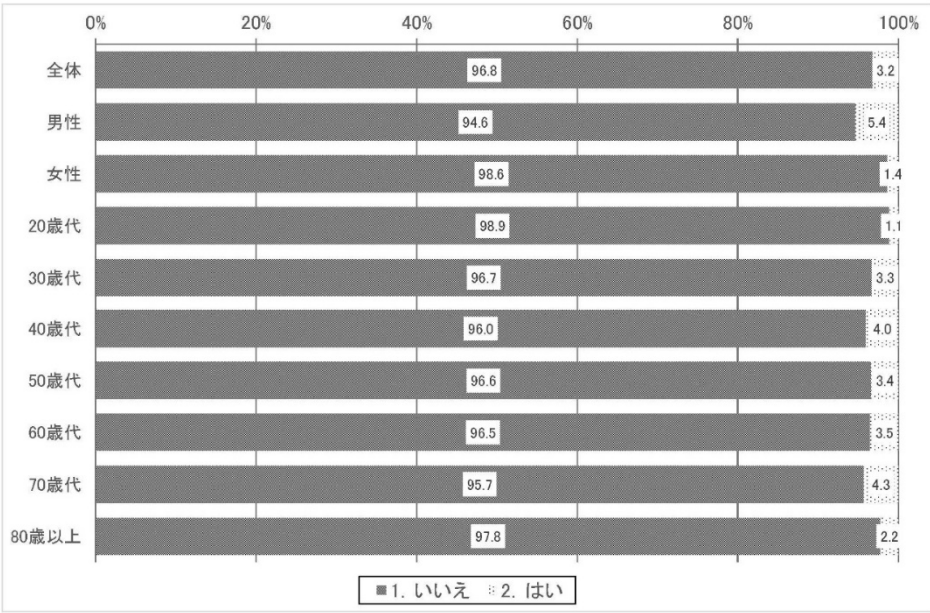
Q11-4. 子どもを対象とした活動



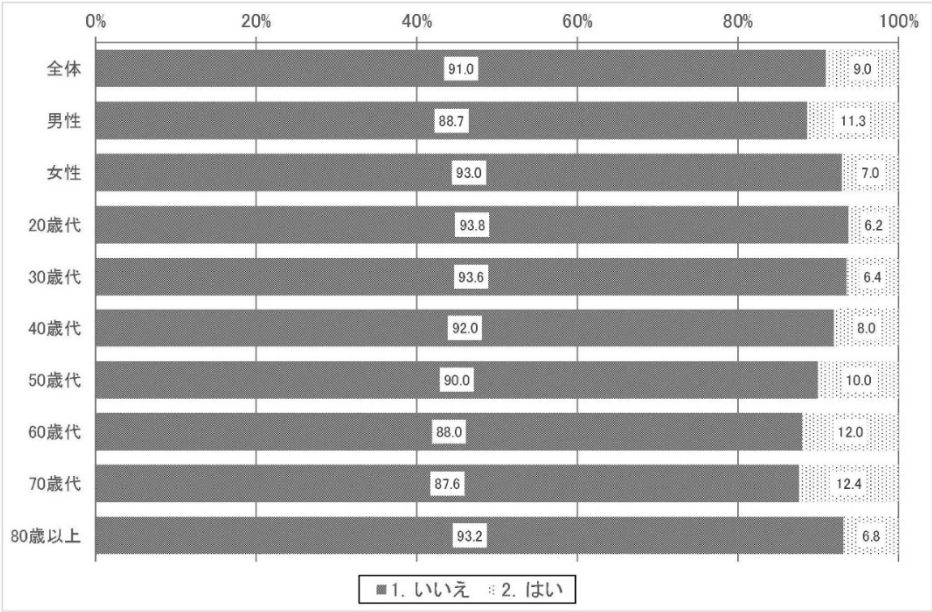
Q11-5. 高齢者を対象とした活動



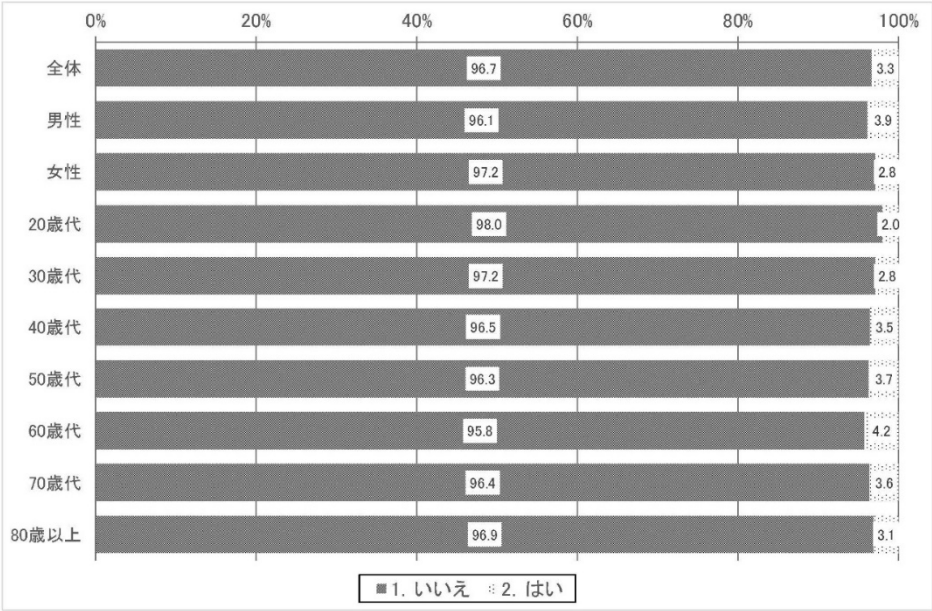
Q11-6. 防犯・防災に関係した活動



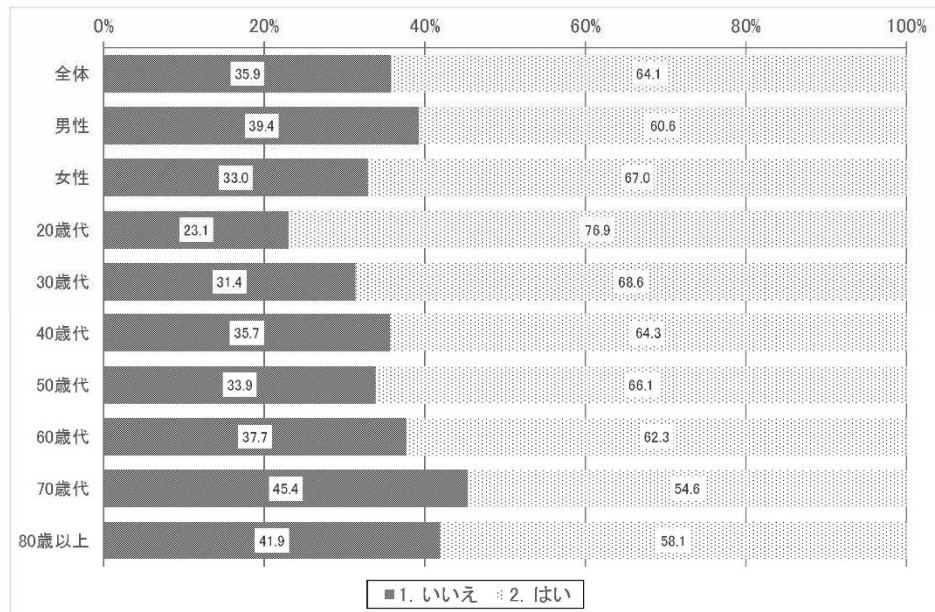
Q11-7. 自然や環境を守るための活動



Q11-8. 上記以外の活動



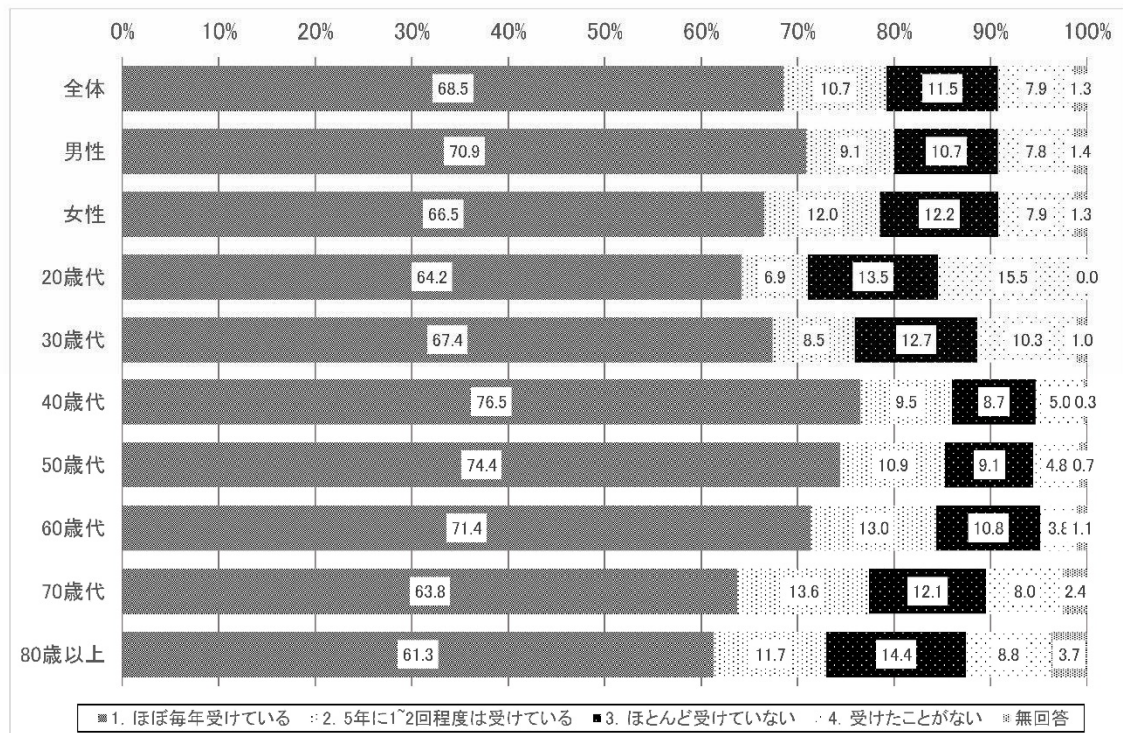
Q11-9. 健康づくりに関係したものはない、ボランティア活動はしていない



この1年間に行ったボランティア活動のうち、健康づくりに関係した活動をおこなっていない割合が64.1%と最も高く、実際に健康づくりに関係した活動をおこなっている者は全体の半分以下であった。とくに女性の活動する割合が低く、年齢が若いほど活動をおこなっていない傾向がみられた。

各項目のうち、7. 自然や環境を守るための活動をおこなった割合が最も高い割合である。それに対して、1. 食生活などの生活習慣改善のための活動をおこなった割合が全体の中でも最も低い割合を示している。男女間に大きな差は見られたのは3. まちづくりのための活動であり、より男性の方が高い割合を示している。

Q12: あなたは健康診断や人間ドックを受けていますか。(あてはまるもの1つに○)



健康診断や人間ドックを「ほぼ毎年受けている」と回答した割合は、全体の68.5%であった。

性別の集計では、男性で70.9%、女性で66.5%が「ほぼ毎年受けている」と回答し、男性のほうが健康診断や人間ドックを受けた割合が高かった。

年代別の集計では、健康診断や人間ドックを「ほぼ毎年受けている」と回答した割合は、40歳代が76.5%と最も高く、次いで50歳代が74.4%となっている。20歳代から80歳以上のすべての年代で「ほぼ毎年受けている」と回答した者の割合が6割以上であった。